

「遺言の有無」— 両親に聞いておきたいことのトップ
— お彼岸を前に「2006年版 団塊世代の葬儀観」調査を実施 —

(株)くらしの友

弊社では、このたび「2006年版 団塊世代の葬儀観」調査を実施しました。
団塊世代の男性を対象に2004年から毎年実施している「団塊世代の葬儀観」調査の第3弾ですが、今回は設問の一部を親の葬儀経験者と未経験者に分けて聞き、その意識の違いを探りました。
以下はその調査結果です。

< 要 約 >

- 親の葬儀の規模。実際は「従来型の一般的な葬儀」 (2P)
- 突然の葬儀で困らないために、「遺言の有無」は両親に聞いておきたいが30%超 (4P)
- 両親が亡くなったら、「葬儀業者や葬儀会場を探す」ことが流れのポイントに (6P)
- 正月に喪に服す—「年賀欠礼のあいさつ」は85%と当たり前。
「年始のあいさつ回りをしない」、「初詣に行かない」も30%以上 (7P)
- 斎場(葬儀場)はどこにあったらいい? 立地のキーワードは、“近所” (8P)
- 公共機関内での若者の行為、ワースト3は、「大音量で音楽」、「床への座り込み」、「携帯での通話」 (9P)
- 同時代を生きたから? もっとも好感の持てる女性は、「吉永小百合」 (10P)

※団塊の世代…1947年～49年の第一次ベビーブームに生まれた人々で、常に戦後の消費をリードしてきた世代。作家の堺屋太一氏が著書『団塊の世代』で命名。

この件に関するお問い合わせは下記までお願いします。

(株)くらしの友 総合企画部
原田または仲山
TEL 03-3735-5357

(株)サン・クリエイティブ・パブリシティ
代田(沙々)、金原、飯島
TEL 03-3545-0511

調査概要

- 調査時期 2006年8月7日～14日
- 調査対象 首都圏(1都6県)在住の**男性**で、団塊世代<1947(昭和22)年～1949(昭和24)年生まれ>の方
- 調査方法 インターネットによる調査
- 有効サンプル数 400
[親の葬儀経験者:337人(84.3%)、親の葬儀未経験者:63人(15.8%)]
- サンプル内訳

	実数(人)	%
1947年生まれの59歳	64	16.0
1947年生まれの58歳	38	9.5
1948年生まれの58歳	96	24.0
1948年生まれの57歳	51	12.8
1949年生まれの57歳	110	27.5
1949年生まれの56歳	41	10.3
集計母数	400	

調査内容

【設問1】

- Q. <葬儀経験者へ質問しました> あなたのご両親にご不幸があったとき、葬儀はどの程度の規模で行いましたか？

■親の葬儀経験者(N=337)

	実数(人)	%
1. 家族、親兄弟、親族、友人、近所、会社関係が参列する従来型の一般的な葬儀	274	81.3
2. 家族、親兄弟、親族、友人が参列する比較的小型の一般的な葬儀	33	9.8
3. 家族、親兄弟、親族だけが参列する葬儀	25	7.4
4. 家族だけが参列する葬儀	5	1.5
5. 葬儀は行わなかった	0	0
集計母数	337	100.0

※上記表内の家族とは、「自分・妻・子供」と定義します。

【 設問 2 】

Q. <葬儀未経験者へ質問しました> 万が一、あなたのご両親にご不幸があった場合、葬儀はどの程度の規模で行いたいとお考えですか？

■親の葬儀未経験者（N=63）

	実数(人)	%
1. 家族、親兄弟、親族、友人、近所、会社関係が参列する従来型の一般的な葬儀	18	28.6
2. 家族、親兄弟、親族、友人が参列する比較的小型の一般的な葬儀	11	17.5
3. 家族、親兄弟、親族だけが参列する葬儀	15	23.8
4. 家族だけが参列する葬儀	6	9.5
5. 分からない	12	19.0
6. 葬儀は行わない	1	1.6
集計母数	63	100.0

■設問1の<経験者>の回答

	実数(人)	%
1. 家族、親兄弟、親族、友人、近所、会社関係が参列する従来型の一般的な葬儀	274	81.3
2. 家族、親兄弟、親族、友人が参列する比較的小型の一般的な葬儀	33	9.8
3. 家族、親兄弟、親族だけが参列する葬儀	25	7.4
4. 家族だけが参列する葬儀	5	1.5
5. 分からない		
6. 葬儀は行わない	0	0
集計母数	337	100

※上記表内の家族とは、「自分・妻・子供」と定義します。

親の葬儀の規模。実際は「従来型の一般的な葬儀」

設問1と2では、ご両親にご不幸があったとき、葬儀はどの程度の規模で行ったかを「親の葬儀経験者」(337名)に、どの程度の規模で行いたいかを「親の葬儀未経験者」(63名)にそれぞれ聞きました。

<葬儀経験者>

最近の葬儀は、従来よりも小型化の傾向になりつつあると言われてはいますが、この調査でみるかぎり、経験者の80%以上が実際には「家族、親兄弟、親族、友人、近所、会社関係が参列する従来型の一般的な葬儀」を行ったと答えています。

一方、「比較的小型の一般的な葬儀」、「家族、親兄弟、親族だけが参列する葬儀」、「家族だけが参列する葬儀」といった身内中心の小規模の葬儀を行ったと答えた人は20%弱で、ほとんどの人が「従来型の一般的な葬儀」を行っています。

<葬儀未経験者>

「家族、親兄弟、親族、友人、近所、会社関係が参列する従来型の一般的な葬儀」を行いたいと答えた人は、未経験者では30%弱に留まりました。経験者の80%と比べると、50%も数値が低くなっています。

一方、「比較的小型の一般的な葬儀」、「家族、親兄弟、親族だけが参列する葬儀」、「家族だけが参列する葬儀」といった身内中心の小規模の葬儀を行いたいと答えた人は、未経験者は50%を超え、経験者

を30%も上回りました。未経験者は、「身内中心の小規模な葬儀」を考える傾向があるようです。

葬儀経験者の80%が従来型の葬儀で行っていることを考えると、小規模な葬儀を希望していても、親類との関係、親や遺族の社会的なつながりを考え、実際は家族を中心とした小規模な葬儀にはできず、従来型の葬儀になってしまうことが多いのではと想像できます。

【 設問3 】

Q. ご両親が突然亡くなり、何の準備もなく葬儀を行わなければならないケースがありますが、ご両親にこれだけは聞いておきたいことは何ですか？

(※既に済ませている方は、聞いておきたかったことをお答えください)

<複数回答(3つまで)>

順位		全 体		親の葬儀経験者		親の葬儀未経験	
		実数	%	実数	%	実数	%
1	遺言の有無	126	31.5	110	①32.6	16	③25.4
2	参列者のリスト	123	30.8	103	②30.6	20	①31.7
3	葬儀の規模・形式の要望	90	22.5	71	④21.1	19	②30.2
4	資産状況	89	22.3	77	③22.8	12	④19.0
5	遺影(写真)の希望	54	13.5	42	⑤12.5	12	④19.0
6	葬儀費用の準備	44	11.0	37	⑥11.0	7	⑥11.1
7	互助会・葬儀会社などの連絡先	36	9.0	29	⑧ 8.6	7	⑥11.1
7	宗教・宗派・寺院	36	9.0	31	⑦ 9.2	5	⑧ 7.9
9	家系について	33	8.3	29	⑧ 8.6	4	⑩ 6.3
10	戒名のランク	29	7.3	24	⑩ 7.1	5	⑧ 7.9
11	墓の用意	27	6.8	23	⑪ 6.8	4	⑩ 6.3
12	お坊さんの要望	15	3.8	11	⑫ 3.3	4	⑩ 6.3
13	葬儀の演出・進行	8	2.0	7	⑬ 2.1	1	⑭ 1.6
14	その他	6	1.5	4	⑭ 1.2	2	⑬ 3.2
	集計母数	400		337		63	

突然の葬儀で困らないために、「遺言の有無」は両親に聞いておきたいが30%超

ご両親が突然亡くなり、何の準備もなく葬儀を行わなければならないケースがあります。葬儀の際に困らないためにも「これだけは聞いておきたい」ということは何でしょうか？

全体で最も多かったのが「遺言の有無」で、「参列者のリスト」と拮抗しています。3位以下は、「葬儀の規模・形式の要望」、「資産状況」が続きます。

親の葬儀の経験・未経験で比較すると大きな意識差が出ました。

経験者は①「遺言の有無」、②「参列者のリスト」、③「資産状況」を上位3位に挙げています。相続は“争続”といわれるように、葬儀が終わったあとの苦労を実際に経験しているせいか、「葬儀後」の不安を感じているようです。見方を変えれば、「葬儀前」のことは葬儀業者がすべてやってくれる、それよりも後が大事ということなのでしょう。

一方、未経験者は、①「参列者のリスト」、②「葬儀の規模・形式」、③「遺言の有無」が上位3位ですが、リストや規模・形式といった葬儀を行う準備段階のことを挙げました。葬儀に対して現実感がないため、「葬儀前」のことに不安があるようです。

【 設問 4 】

Q. ご両親がお亡くなりになったら、あなたはまず最初に何を思い浮かべますか？

(※既に済ませている方は、実際に思い浮かべたことをお答えください)

＜複数回答(2つまで)＞

順位		全 体		親の葬儀経験者		親の葬儀未経験	
		実数	%	実数	%	実数	%
1	家族、親族へ連絡する	339	84.8	288	85.5	51	81.0
2	葬儀業者や葬儀会場を探す	128	32.0	111	32.9	17	27.0
3	自分の会社へ連絡する	85	21.3	73	21.7	12	19.0
4	菩提寺へ連絡する	55	13.8	46	13.6	9	14.3
5	近所の顔役へ連絡する	38	9.5	32	9.5	6	9.5
6	すでに契約している互助会などへ連絡する	34	8.5	33	9.8	1	1.6
7	役所へ行く(連絡する)	28	7.0	20	5.9	8	12.7
8	葬儀費用の捻出	25	6.3	23	6.8	2	3.2
9	両親の預貯金を下ろす	13	3.3	11	3.3	2	3.2
10	保険会社へ連絡する	2	0.5	1	0.3	1	1.6
11	墓を探す	1	0.3	1	0.3	—	—
12	喪服選び	—	—	—	—	—	—
13	その他	4	1.0	1	0.3	3	4.8
	集計母数	400		337		63	

両親が亡くなったら、「葬儀業者や葬儀会場を探す」ことが流れのポイントに

両親が亡くなったら、まず最初に何を思い浮かべるかを聞きました。ここには、葬儀に際して一般的に行われている行動の順序がはっきり数字に出ています。

回答が多かった順に並べると、①「家族、親族へ連絡する」(84%)⇒②「葬儀業者や葬儀会場を探す」(32)⇒③「自分の会社へ連絡する」⇒④「菩提寺へ連絡する」⇒⑤「近所の顔役へ連絡する」といった具合です。

ご不幸があった場合にまずすべきことは家族への連絡です。そして葬儀業者へ連絡。会場や日どりを決めなければ、会社やご近所にも連絡ができませんので、葬儀社へ連絡することが葬儀を行う際のポイントに

なります。

大半の人が、亡くなってから葬儀業者を探すと言われていますが、日頃から信頼できる葬儀業者をみつ
けておくことが大切です。

昔は優先順位の高かった「菩提寺への連絡」ですが、この調査では優先度が会社へ連絡した後に来て
います。都市部では菩提寺との関係が希薄になっていることのあらわれでしょうか？

【 設問 5 】

Q. 身内にご不幸があった場合、喪に服することが一般的ですが、あなたがお正月に守りたいことは
何ですか？

(※既に済ませている方は、実際に守ったことをお答えください)

<複数回答(いくつでも)>

順位		全 体		親の葬儀経験者		親の葬儀未経験	
		実数	%	実数	%	実数	%
1	年賀欠礼として、喪中 のあいさつ状を出す	337	84.3	284	84.3	53	84.1
2	年始のあいさつ回りを しない	151	37.8	130	38.6	21	33.3
3	初詣に行かない	134	33.5	114	33.8	20	31.7
4	「おめでとう」と言わ ない	82	20.5	68	20.2	14	22.2
5	おせち料理を食べない	64	16.0	52	15.4	12	19.0
6	親類、友人と派手に集 まらない	63	15.8	54	16.0	9	14.3
7	旅行に行かない	33	8.3	31	9.2	2	3.2
8	その他	1	0.3	1	0.3	—	—
9	気にしない	22	5.5	19	5.6	3	4.8
	集計母数	400		337		63	

**正月に喪に服す—「年賀欠礼のあいさつ」は85%と当たり前。
「年始のあいさつ回りをしない」、「初詣に行かない」も30%以上**

身内にご不幸があった場合、喪に服しますが、お正月に守りたいことは何なのでしょう？

もっとも多かったのが「年賀欠礼として、喪中のあいさつ状を出す」で全体の85%が答えています。喪に
服すこととして、当たり前のこととなっています。

次いで「年始のあいさつ回りをしない」、「初詣に行かない」がきますが、いずれも3分の1の人が挙げて

います。

その他のことは、喪に服すこととしてあまり定着していないようです。

【 設問6 】

Q. 斎場（葬儀式場）は本来どこにあるのがよいと思いますか？

順位		全 体		親の葬儀経験者		親の葬儀未経験	
		実数	%	実数	%	実数	%
1	自宅の近くで徒歩圏内	92	23.0	82	24.3	10	15.9
2	自宅近くの幹線沿い	89	22.3	71	21.1	18	28.6
3	最寄り駅の近く	87	21.8	73	21.7	14	22.2
4	火葬場の近く	78	19.5	65	19.3	13	20.6
5	沿線の駅の近く	29	7.3	24	7.1	5	7.9
6	人家のない場所	7	1.8	6	1.8	1	1.6
7	亡くなった病院の近く	3	0.8	3	0.9	—	—
8	その他	15	3.8	13	3.9	2	3.2
	集計母数	400		337		63	

斎場（葬儀場）はどこにあったらいい？ 立地のキーワードは、“近所”

斎場（葬儀場）は本来どこにあるのがよいかを聞きました。

「自宅の近くで徒歩圏内」、「自宅近くの幹線沿い」、「最寄り駅の近く」の上位3位は、いずれも全体20%以上で、“近所”がキーワードとして浮かび上がってきます。

厚生労働省が発表した 2005 年「人口動態統計月報年計(概数)の概況」によると、2038年には死亡者は170万人に達すると予測しています。高齢化社会の到来で死が日常化し、葬儀への参列機会が増えることで、近場でなければ参列が難しくなることも予想されます。

葬儀を行う側としても、葬儀に参列する人のことを考えても、自宅や駅、幹線から近いところが便利なのでしょう。

※以下の設問は、団塊世代の男性が日常生活の中でどのような意識を持っているのかを探るため、本調査の番外編として聞いてみました。

【 設問 7 】

Q. 電車・バス内における若者の行為で、あなたが腹の立つことは何ですか？

<複数回答(2つまで)>

順位		全 体	
		実数(人)	%
1	大音量で音楽を聴く	166	41.5
2	床に座り込んでいる	146	36.5
3	携帯電話での通話	135	33.8
4	お年寄りや障害者などに席を譲らない	124	31.0
5	化粧している	123	30.8
6	大声で話しをする	116	29.0
7	股を開いたり、足をのばしたりしている	99	24.8
8	座席を占有している	84	21.0
9	優先シートに平気で座る	74	18.5
10	飲食している	47	11.8
11	彼氏（彼女）とベタベタしている	19	4.8

公共機関内での若者の行為

ワースト3は、「大音量で音楽」、「床への座り込み」、「携帯での通話」

電車やバスなどの公共機関における若者の行為で、腹の立つことは何なのでしょう？

もっとも多かったのは「大音量で音楽を聴く」で全体の40%以上です。次いで、和式のトイレスタイルを連想させる「床に座り込んでいる」、続いて「携帯電話での通話」がきますが、以上が腹の立つ若者の行為“ワースト3”と言えます。これらは、昔は見られなかった新しいタイプのもので、特に「大音量で音楽」と「床への座り込み」は若者特有の行為です。

5位の「化粧」については、“化粧＝化ける姿”は見せない方が美しく見えるという、野次馬の声もあります。

「飲食している」、「彼氏（彼女）とベタベタしている」はあまり気にならないのか、寛容な結果となりました。

【 設問8 】

Q. 女優、歌手、その他タレントで、もっとも好感の持てる女性は誰ですか？

順位	人 物	全 体	
		実数(人)	%
1	吉永小百合	59	14.8
2	仲間由紀恵	29	7.3
3	黒木 瞳	21	5.3
4	松嶋菜々子	12	3.0
5	菊川 怜	7	1.8

同時代を生きたから？ もっとも好感の持てる女性は、「吉永小百合」

団塊世代の男性にとって、女優、歌手、その他タレントで、もっとも好感の持てる女性は誰なのでしょう
か？

フリーアンサーですので回答にバラつきがみられましたが、もっとも多かったのが「吉永小百合」で、
15%の人が挙げています。団塊の世代よりもわずかに上の世代ですが、映画などを通し、彼女と共に同じ
青春時代を過ごしてきたため、共感するところがあるのでしょう。

次いで多かったのが「仲間由紀恵」です。NHK大河ドラマ「功名が辻」の千代役でみせた堅実な女性の
イメージが受けたのでしょう。

3位は「黒木 瞳」。元宝塚歌劇団月組のトップで現在も映画、ドラマ、舞台、CM と多方面で活躍。「理想
の上司」や「キャリアマザーのファッションリーダー」などの調査にも常にランクインしています。

以下、「松嶋菜々子」、「菊川 怜」と続きますが、団塊世代の男性は、比較的知的、堅実で清楚なイメ
ージの女性に惹かれているようです。

ベスト5をみますと、団塊と同世代の女性がランクインしていませんが、これはメディアでの露出度に影響
を受けているためでしょうか。

— 以上 —